

【事業実績】

1. 「黒耀石のふるさと祭り」

①各種体験プログラム



弓矢体験

ミュージアムの周囲に広がる遺跡広場や駐車場では、地域の方を含めた大勢のスタッフに尽力を頂いて、弓矢や吹き矢を使った狩りの体験、縄文ペイント、発掘体験、発掘技能オリンピック、火起こし体験、黒耀水の野点、旧石器バーベキューのほか、大きな縄文土器で調理した縄文スープの食体験もありました。また、弓矢競技会と発掘技能オリンピックでは、子供の部、大人の部それぞれの腕前を競うコンテストも開催されました。



発掘技能オリンピック



火起こし体験

②日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」紹介、体験ワークショップ



日本遺産認定地域の市町村、構成団体の方々の方の姿が見られました。

今年度は上記体験プログラムに加え、日本遺産認定地域である長野県・山梨県の14市町村と構成団体による、日本遺産紹介ブースと体験ワークショップを実施しました。「縄文農耕」「縄文土器にタッチ」「縄文土器の拓本カードづくり」「縄文のイエづくり」「土偶づくり」など、工夫を凝らした体験に世代を問わず大勢の参加者が集まりました。各団体の紹介ブースでは、各地域の特色ある文化財を紹介する冊子を熱心に読んだり、担当者に質問したりす

③黒耀石の森コンサート

イベント会場の中央には特設ステージが設けられ、アイヌ舞踊や音楽を通してアイヌ文化を伝えるペウレ・ウタリによる伝統舞踏や唄から縄文時代の祭りをイメージして頂き



各市町村の日本遺産の紹介

ました。また、地元からは農協婦人会によるスコップ三味線、和田小学校5年生による「コカリナ」演奏、長門小学校6年生による「祈り鶴」の斉唱の参加があり、最後は長和町黒耀石のふるさと親善大使の葦木啓夏さんによる縄文の女神コンサートで会場を盛り上げて頂きました。



和田小学校5年生によるコカリナの演奏



親善大使・葦木啓夏さんと
長門小学校6年生による斉唱

2. 「地域歴史遺産継承人材育成事業」

本事業では、子供たちと社会人の両世代を対象とした歴史学習の場を設定しました。

まず、これまで継続してきた地元の小・中学生を対象としたオブシディアン学習では、博物館学芸員や講師を招いた学集会やミュージアムでの体験学習などを実施し、地域の歴史遺産に対する理解を深めました。ある小学6年生は、小学校時代の一番の思い出として「ミュージアムで縄文土器を作ったこと」を挙げています。

平成20年度から継続してきたこの「オブシディアン学習」を受けた子どもたちが成長して高校生となり、地域の歴史遺産を世界に向けて発信する「長和青少年黒耀石大使」事業に参加するようになっていきます。平成28年度に初めて実施し、平成30年度からは1年おきの継続事業となった「長和青少年黒耀石大使」事業は、長和町が推進している英国セトフォードとの共通の歴史遺産を基盤にした国際交流事業の軸であり、大使となった中学3年生から高校3年生の子供たちは、地域の貴重な歴史遺産である黒耀石や縄文文化について学んだことを世界に向けて発信し、英国の同世代の若者たちとそれぞれの歴史文化を共有して学びあうものです。今年度は、大学生や社会人となった黒耀石大使1期生が「黒耀石のふるさと祭り」にスタッフとして自主的に参加し、また第3期生の大使7名が日本遺産認定団体のブース担当スタッフとしてふるさと祭りに参加しました。



縄文土器について説明する黒耀石大使3期生



阿部芳郎先生とアシスタントの黒耀石大使1期生

「長和青少年黒耀石大使」事業は本事業とは別に進めている事業ではありますが、本事業のオブシディアン学習を経験した子どもたちが成長した後も継続的に地域の歴史遺産に関わることを可能にする取り組みです。進学や就職

のために長和町を離れている若い世代が帰省して地域の歴史イベントに参加してくれたという事実は、短期では可視化の難しい「人材育成」事業のひとつの成果を表すものであると考えています。

子供たちに加え、社会人のより幅広い年齢層をターゲットにした歴史学習として、「黒耀石のふるさと祭り」に縄文文化研究の第一人者である明治大学文学部教授の阿部芳郎先生をお招きし、『星降る中部高地の縄文文化』と題して、日本遺産に認定された当地域の縄文文化の特色について講演会を開催しました。講演会はお祭りのメインステージにて行われ、地元の小・中学生や大人のスタッフ、町内外から訪れた来場者を始め、考古学の専門家である日本遺産認定地域の皆さんも「縄文文化の特色とは」「黒耀石は何に使われたのか」「黒耀石が拓く縄文の社会」といったテーマごとのお話に熱心に耳を傾け、改めて黒耀石文化の意義やその原産地である長和町の魅力を認識しました。

こうした年齢層を限定しない人材育成の要望が高まってきた背景には、昨年度まで3回に渡って「黒耀石のふるさと祭り」で開催した「星糞峠黒耀石原産地遺跡」での遺跡説明会があったと考えられます。この説明会は、縄文時代に星糞峠で行われていた黒耀石の採掘の実態を解明するための発掘調査の成果を一般に公開する目的で行ってきました。継続的に公開してきた発掘調査の様子や平成30年度の「日本遺産」への認定、さらには発掘調査における様々な発見や成果がテレビや新聞等で大きく取り上げられたことも重なり、星糞峠の黒耀石採掘遺跡を見学する人は例年人数が増加しています。本物の遺跡に足を運んで学んだ人が増えていることも、ふるさと祭りの来場者数が1000人を超えるようになってきている大きな要因だと考えられます。